

駆動事業の展望と明日に向けて

Future of Driveline Business



伊藤 寛*

Hiroshi ITO

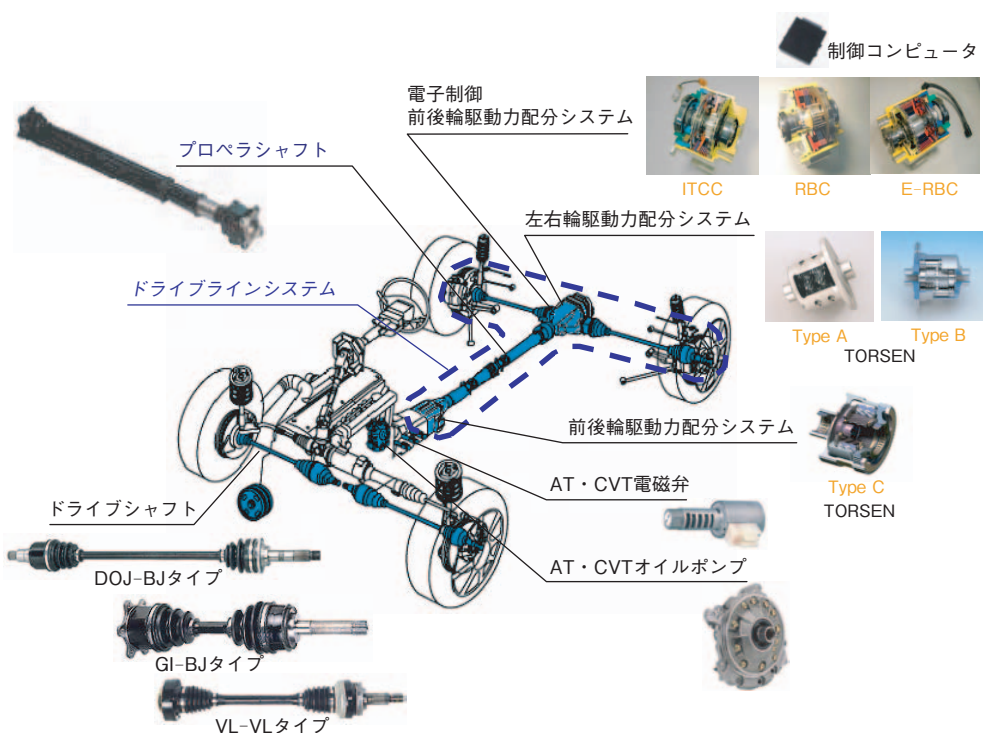
近年、自動車業界では、ダイムラーベンツとクライスラー、ルノーと日産自動車などの大型合併・提携に代表されるような巨大な合従連衡などによる基盤強化が進む一方、さらなる飛躍を目指して競争が繰り広げられています。最近では、地球環境へのやさしさ・燃料経済性、安全・信頼性などのお客様のニーズなどにより、トヨタ自動車をはじめ日本の自動車メーカーが急速にシェアを拡大してきています。一方では、韓国などの自動車メーカーも急速に拡大してきており、さらに熾烈な競争の時代を迎えています。

技術開発の面では、高性能・高機能化とともに地球にやさしい技術、例えば、ハイブリッド車両の開発や将来技術としての燃料電池車両の開発なども、急速に進められています。戦略的システムユニットの開発が急速に進

められ、その内製化が増加するのに対応して、従来からの自動車部品、例えば、駆動系では、自動・手動変速機やドライブラインユニットの外注化が拡大しています。

この世界的な自動車メーカーの動向に対応して、自動車部品業界においても、大規模な合従連衡が急速に進んでいます。また、米国の巨大な自動車部品メーカーの経営的破綻が表面化するなど、競争はさらに厳しさを増しております。当社の駆動事業においても、GKNとの合併会社ジーケーエヌ・ジェイテクト（旧ジーケーエヌ豊田工機）の設立、ロバート・ボッシュからのトルセン事業の買収などにより、事業の基盤強化を進めてきました。

このような環境下で、新生(株)ジェイテクトが誕生しました。駆動事業としては、旧豊田工機を基盤に、旧光洋精工の駆動系部品の商用車用プロペラシャフトや自動



ジェイテクトのドライブラインシステムと構成部品

*常務執行役員 駆動事業本部

変速機用の部品などの多くの構成部品とその技術を対象としています。これらに加え、駆動系部品の要素技術や基礎技術である軸受技術との連携や工作機械関係の技術による『ものづくり改革』などのシナジー効果により大幅に基盤が強化されました。

合併により事業規模や技術力の面で強化された多くの強みを生かし、主力ユニットのさらなる商品魅力の向上と小型・軽量、高効率などの地球環境にやさしい技術開発に努めていきます。さらに、自動車メーカーとの連携を通じて、ドライブラインの個別ユニットだけにとどまらずに全体システムとしての最適技術を提案して、自動車の安全・軽量化に貢献していききたいと思えます。

当社の駆動事業の製品は、CVJ、4WDユニット、プロペラシャフトおよびAT・CVT用のオイルポンプ、MTその他の関係部品などであり、駆動系の幅広い製品を提供しております。今回は、当社の主要製品のCVJ、4WDユニット、プロペラシャフトの展望について述べさせていただきます。

1. CVJ

CVJは、1999年のジーケーエヌ・ジェイテクトの設立を機に、競争力の高い商品のラインアップが充実し、グローバル営業戦略などの効果により着実に売上を伸ばし、日本国内ではグループとして、第2位のシェアを確保するまでに成長してきました。また、中国、タイのアジア地域での現地生産体制も構築し、着実に基盤を強化してまいりました。しかし、世界的には、二つの巨大なメーカーが圧倒的な強さをしめしており、さらに一層の努力が必要な状況です。

CVJは、特に軸受関連技術と強い関係があり、今回の合併を生かし、転動面の最適形状、材質、表面改質など、新たな技術を取り入れ、小型化、低強制力化（低振動化）と広角化（小回り性の向上）などで特徴ある商品の開発を進めていきます。また、周辺の関係ユニットも充実してきており、高い視点からの発想によるCVJとのモジュール製品の開発などを進め、部品点数の削減、小型・軽量化を達成し、自動車メーカーに大きく貢献出来る新たな商品分野を切り開いていききたいと思えます。

2. 4WDユニット

4WDの市場は、SUV、RV市場の拡大や、走行安全

性の向上などのニーズに対応するために、セダン系を含めて確実に拡大しています。その中で、当社の4WD電子制御カップリング（ITCC）とトルセンは、制御性と高い応答性に優れるオンリーワン商品として、確実に高いシェアを確保しています。

一般の4WDユニットは、安全性の向上、走行性能の向上という利点はあるものの、車両重量の増加に伴う燃料消費量の増加や、車両の安全性のためのアンチロックブレーキシステム（ABS）との制御性の悪さなどのマイナス点もあります。

しかし、例えば、ITCCの場合には、新しい制御ロジックの開発により、ABSとの制御性の確保、使用条件に合わせた最適なトルクの配分による従来の4WDより大幅な燃料消費量の改善やプロペラシャフト、ドライブシャフト、デフなどの4WDシステム全体の小型・軽量化効果の提案により、急速に市場を拡大しています。この数年で、制御4WDの市場は、数倍に拡大すると予想しておりますが、さらなる技術開発革新を続け、世界No.1の位置を確固たるものにしていききたいと思えます。

3. プロペラシャフト

プロペラシャフトは、2002年に生産を開始して以来、2005年からは専用的高速等速ジョイントの生産を開始するなど、着実にプロペラシャフトの専門メーカーとしての位置付け向上を推進してきました。また、旧光洋精工の軸受事業では、これ以前からプロペラシャフトを生産しておりましたし、プロペラシャフト用のクロスジョイントを、国内のほとんどのプロペラシャフトメーカーに納入している実績があります。社内の両事業の得意技術やCVJ技術を十分に活用して、さらに小型・軽量プロペラシャフトの開発を推進していきます。

現在、海外ではタイで部品の生産をしていますが、各事業の海外拠点を生かして、海外生産も拡大してグローバルな専門メーカーとして成長をしていききたいと思えます。

以上、当社の駆動事業の今後の展望について述べました。今後、さらに魅力ある商品の開発に英知を結集していくと同時に、ITCCのところでも一部説明しましたように、各々のユニットだけでなく、駆動系全体として最適なシステム提案をできるようにさらに技術開発を進めていききたいと思えます。